

会 議 録

会議の名称	第4回小金井市保育検討協議会	
事務局	子ども家庭部保育課	
開催日時	平成27年9月9日(水) 午後7時30分～9時00分	
開催場所	小金井市役所第二庁舎8階801会議室	
出席者	委員	師岡 章 委員 (学識経験者) 三橋 誠 委員 (公立保育園運営協議会代表) 八下田友恵 委員 (公立保育園運営協議会代表) 長岡 好 委員 (民間保育園園長会代表) 真木千壽子 委員 (認証保育所事業者代表) 石黒めぐみ 委員 (公募市民) 大塚 和彦 委員 (公募市民)
	市	佐久間育子 (子ども家庭部長) 鈴木 遵矢 (保育課長) 藤井 知文 (保育課長補佐) 前島 美和 (くりのみ保育園園長) 海野 仁子 (けやき保育園園長)
欠席者	加藤 吉和 委員 (学識経験者) 石原 久枝 委員 (福祉サービス (障害者 (児) 事業者代表) 多米 紀子 委員 (公募市民)	
傍聴の可否	(可) ・ 一部不可 ・ 不可	
傍聴者数	18人	
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 第3回会議録の確認 (2) 協議事項 現状確認及び課題の抽出 (3) 次回日程の確認 3 閉会	
発言内容・ 発言者名 (主な 発言要旨)	別紙のとおり	
会議結果	2 議事 (1) 第3回会議録の確認 (2) 協議事項 現状確認及び課題の抽出 (3) 次回日程の確認	

	平成27年9月25日(金) 19時30分から開催することとした。
提出資料	民間保育所研修実施状況(会議終了後回収)
その他	なし

第4回小金井市保育検討協議会 会議録

平成27年9月9日

開 会

- 師岡会長 では、ただいまから第4回小金井市保育検討協議会を開会いたします。
- 先ほど事務方からもご案内いただきましたが、本日は、体調不良ということで、加藤委員の欠席、並びに、事情によりまして、多米委員もご欠席という連絡が入っております。
- なお、石原委員と石黒委員はご出席のご意向だそうで、まだお着きになっておりませんが、いずれご到着されると思います。
- 一応、10名の委員のうち、現在、6名お出でになっておりますし、要綱上は特に会議の成立要件の明記はありませんが、慣習的に、こうした協議会の場合、過半数を超える出席がある場合には会議が成立しているとみなせると思いますので、この点を皆さんとご確認させていただいた上で会議を進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議ありません」の声あり)

- 師岡会長 では、改めて、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、きょうは台風ということで、お足元の悪い中お集まりいただいて、本当にありがとうございます。

それでは、既に机のほうに配付してございます次第に従いまして進めてまいります。

では、議事の1番目、第3回目の会議録の確認を議題といたします。

事務局のほうから説明をお願いいたします。

- 鈴木課長 第3回会議録につきましては、未定稿を委員の皆さんに送付させていただきました。期限までに校正いただいた部分を修正し、本日配付したものです。内容をご確認の上、お配りの内容でよろしければ公開の手続きをとりたいと思っております。

ということで、よろしいでしょうか。

- 師岡会長 はい、どうぞ。

- 大塚委員 自分の発言箇所ではないんですが、藤井課長補佐の……。

- 師岡会長 何ページ目ですか。

○大塚委員 5ページ目ですね。

○師岡会長 5ページ目ですか。

○大塚委員 ええ。保育事業の総合的見直しの説明、資料の説明をされている中で、5ページ目の上から7行目か8行目で、自分の発言箇所でないので恐縮なんですけど、「5番目の運営方針の見直しでございますが」とありますが、総合的な見直しの5番目には「運営方式の見直し」とあるんです。かなり重要な文言なので、正確にしたほうがいいのではないかと。

そうですね。これは、「方針」ではなくて、「運営方式の見直し」ですね。

○師岡会長 これは誤植ということでしょうか。当初のデータ、いわゆる主要な論点の5番目、見出しは「運営方式」なので、そちらのほうに訂正していただきましょうか。

○大塚委員 はい。それだけです。

○師岡会長 ほかに何かお気づきの点ございますか。よろしいですか。

それでは、5ページ目、今ご指摘の上から8行目ですね。「続きまして、5番目の運営方針の見直しでございますが」というところを「方式」と訂正した上で議事録確定ということでしょうか。

特にご異議ありませんので、これで確定とさせていただきます。ありがとうございます。

それでは、続きまして、議事の2、協議事項に移ってまいりたいと思います。

本日の協議事項も、前回に引き続き、現状の確認及び課題の抽出ということです。

前回も会長として発言をさせていただきましたが、本協議会に問われていることは、小金井市の今後の保育行政全般について広く意見を求められているわけですので、そうした観点から、当初、資料としても示されました保育検討協議会の設置に係る主要な論点を一つ一つの資料をもとにしながら、前回までも現状確認並びに課題の抽出を行ってきたわけです。

前回は、大まかに言うと、2番目の現状における市の課題の(2)、多様なニーズの充足に向けた対応ということまで把握、現状確認をし、課題の抽出、議論をしたと承知しております。

なお、その際、例えば、アレルギーがある子どもさんへの保育、それらをまた充実させるためにも、また、もっと広く言えば、保育の質の維持向上のためにも研修の必要性というところも改めて意見が出、そして、そのために、前回は公立さんのほうからの資

料提示もありましたが、今回は民間さんのほうの取り組みの一端がまた資料として示されてもいますので、先にそちらのほうを事務局のほうから説明をして、協議事項に入っていきたいと思います。お願いします。

○藤井課長補佐 保育課長補佐です。

それでは、お手元にお配りしました資料をご説明させていただきます。

全部で6ページございまして、まず1ページ目でございますが、こちらは平成26年度におけるA園の園内での研修の内容となっております。

それから、2ページ目、3ページ目につきましては、同じくA園における外部において行った研修の参加実績一覧でございます。

それから、4ページ目をごらんください。こちら平成26年度において行われましたB園における施設内で行われた研修の一覧でございます、5ページ目、6ページ目がそれぞれ同じくB園における外部で行った研修の参加一覧となっております。

こちらの資料につきましては、本会議終了後、回収させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、こちらの資料の詳細につきましては、長岡委員のほうから補足で説明いただければと思います。

事務局の説明は以上です。

○師岡会長 では、長岡委員、補足説明をお願いしてよろしいですか。

○長岡委員 前は公立保育園の研修の内容を見せていただいていたしまして、とても参考になりました。ありがとうございます。なかなかそういった内部の資料を見る機会はなかったものですから、本当にいろいろな会議を持たれていることもわかりましたし、ぜひ私どももそれらを参考に勉強させていただきたいなと思いました。

それに伴って、公立保育園の資料を提示していただいたこともありましたので、民間園として2園ここにお示ししています。

社会福祉法人の中でもいろいろな法人がございますので、当初は研修を平均的にというか、そういった形で、集約してお出しするのがいいのかなとも思ったんですが、そのためには承認をもらわなければいけないような法人もありますので、ここに2園、差し当たって、この会議に間に合うようにと思ひまして、ちょっと規模の違いがあったほうがいいのかとか、あとは歴史であったりとか、少しA園とB園は対象的な園だと思われるんですが、そういったところで、皆様にお示ししたいなと思って、ここ

に資料として提出させていただいています。

○師岡会長 ありがとうございます。それぞれ民間さんのお立場、ご事情がある中で、こうした資料提供をしていただいて、本当にありがとうございます。

では、委員の皆様、今、ご説明、そして、長岡委員からも補足説明していただいた民間保育所の研修実施状況はいかがでしょう。何かご質問等ございますでしょうか。もちろん、ご意見でも構いませんが、いかがでしょうか。

どうぞ。

○三橋副会長 いろいろありがとうございます。非常に立派な資料で、かつ、非常にたくさんの講習が開かれていて、参加されているということもよくわかります。

こういった講習などに参加されるといったときに、実際、どういう経緯でこの講習に参加しようとか、こういう学習会とかをやらうとかというところは、どういうところからでしょうか。例えば、主任会みたいところでこれに行ってみたらどうかとか、園長先生のほうからこういうのがあるとか、あるいは、毎年大体決まって、こういうふうに行っているとか、そのあたりの背景的なところをご説明いただけると、少し理解が深まるかなと思いましたので、ちょっとお願いできたらなと思いました。

○師岡会長 長岡委員、いかがですか。お答えいただける範囲で結構だと思いますが。

○長岡委員 私どもの施設では、一概にどの園もそうしているということが言えないので申しわけないんですが、1つには、研修計画というものを年度当初に作成します。その中で、まず、勤続年数であったりとか、役職であったりとか、そういうことによって、それぞれの課題が違う中で、その研修計画とともに人事考課というものもあるんですが、

人事考課の中で、自分がどういうことに今問題意識を持って今年度は取り組んでいきたいなどのことも挙げられますので、それを総合的に、例えば、リーダークラスであったりとか、そこには園長も入るんですが、そういった中で検討して、それにできるだけ見合うような研修に参加していくという形をとっております。

ですので、むやみに、はい、あなたはこれに行ってくださいとか、そういった形では決してなくて、ご本人と、あとは、園としても、例えば、ことしで言うと、新制度に移行しましたので、そのことについての勉強は絶対必要ですので、そういったものには参加していくといった、双方のやり取りの中で研修は計画されていると思われま

○三橋副会長 ありがとうございます。

○師岡会長 ほかの委員の方、いかがでしょうか。

石黒委員、どうぞ。

○石黒委員　　すごくA園の研修がたくさんある。多分、大きな園だろうなと思ったんですが、研修を受けたことをほかの方に反映する機会というのは、どのようにお持ちなんですか。わかる範囲で。

あと、A園は園内で研修を行うと。

○長岡委員　　はい。

○石黒委員　　B園は。

○長岡委員　　この研修報告は平成26年度のもので。

○石黒委員　　B園もやっぱり園内で……。

○長岡委員　　そうですね。

○師岡会長　　長岡委員、いかがですか。今の質問の中の最初の部分、研修に行った後、園の同僚等へのフィードバックというようなことではどのような取り組みということで、ご紹介いただけるとありがたいです。

○長岡委員　　A園、B園、どちらを特定してお話するということができないので大変申しわけないんですが、まず、研修に行った場合には、研修報告書というものを必ず書いていると思います。

そういった中で、研修報告書は全員閲覧できるようになっておりまして、ファイルになっていて、期間を限定して職員全員が閲覧をしてチェックをしていく。

また、そのほかでは、やはり文書だけではなかなか思いが伝わらなかったり内容が伝わらなかったりしますので、職員会議であったりとか、あとは、わざわざその研修のために行った職員から1時間、研修の研修といったものを実際に聞くという場を設けたり、さまざまなフィードバックの仕方をしております。

何よりも、頭でわかっても、実践に移すことがとても大事だと思いますので、実践に移した、また、その結果であったりとか、そういったことも職員会議でまたフィードバックをするという形をとっていると思います。

○師岡会長　　石黒委員、よろしいですか。

○石黒委員　　はい、ありがとうございます。

○師岡会長　　ほかの方いかがですか。よろしいですか。

前回もちよっとご発言いただきましたが、同じ民間で、認証という立場で、真木先生、口頭でもいいですが、今お示しいただいた私立の民間園の研修とそう大差なく研修を進

めていらっしゃるのでしょうか。それとも、少しまた違いがあったりするのですか。

○真木委員 真木です。

そう変わりはないと思うんですが、うちの場合は認証になってまだ1年半という短い期間ですので、研修のご案内をいただきますと、研修に行かせるようにしています。

やっぱり、自分のスキルを高めるということは子どもに還元できることであり、年齢層がさまざまな年齢がおりますが、少人数ですので、研修に行った後には職員会議で研修の報告という時間をとりまして、みんなのものとなるように進めております。

このA園、B園の研修を見させていただいて、すてきと思う研修がたくさんあるので、うちのほうもこれから出させていただくような形をとっていきたいと思います。勉強になります。

○師岡会長 ありがとうございます。

八下田委員、どうぞ。

○八下田委員 資料をありがとうございます。

すばらしいなと思ったのは、A園のほうではパート職員の研修というもの、年間で1度ですが、設けていて、パートの人を対象に、もちろん、常勤の方もご出席されているということですが、「発達の援助を最大限考慮した環境、乳児異年齢クラス経営」というタイトルでお勉強されていることがすばらしいと思いました。

少しわからないことで、教えていただきたいんですが、B園の5ページで、上から4行目の4番、市内保育園実習、それから、12番と13番の市内保育園実習とありますが、3日間にわたって、半日から1日で保育実習や給食調理実習を市内の保育園でなさっているということですが、これはA園のほうでは参加されていないようですが、民間の保育所で、何園が集まって交流があるのかなと思ってお聞きしたく、質問しました。

以上です。

○師岡会長 長岡委員、いかがですか。

○長岡委員 民間の保育園、特に、社会福祉法人立の民間の園では、非常に助け合いといいますか、そういった中で、例えば、規模が変わることであったりとか、あとは、例えば、給食を業務委託するとか、さまざまなサービスの転換のときに、先に保育を行っている園に実習に行かせていただいているというようにあります。

例えば、昔で言うと、0歳児保育をしていなかった園が0歳児保育を始めましよう

いったときには、それを行っている園において実習をする。ただ、とてもいい保育をしていても、とても遠いところだと、時間もかかりますし、実習自体が短くなってしまいうこともありますので、できるだけ近いところで、少しでも多くの職員が保育園でそれらのことを体験できるようにということがこれらということだと思います。

○師岡会長 よろしいですか。

○長岡委員 ですので、毎年あるわけでは……。

○八下田委員 じゃあ、毎年定期的にお互い勉強し合うという意味で行き来しようということではなくて、その園が何か始めようとか、新しいことをやろうというときに、先行してやっていらっしゃる園に研修に行くという研修ということなんですか。

○長岡委員 そうですね。そうでない場合もちろんあるんですが、定期的ということではないと思います。

○八下田委員 わかりました。ありがとうございます。

○師岡会長 ちょっと補足させていただければと思います。もちろん、会長という立場でということではないんですが、一般論で言えば、やはり、研修というと、例えば、大学の授業風に言うと、講義形式、つまり、ある演者の話を聞いて学ぶというのが主流ではありますが、必ずしもそれだけではなくて、いわゆる演習形式に近い、時には事例をもとにしたがらの検討、討議する、そういった学びもあれば、講義、演習とは別に、実習という形で体験的に学ぶ、あるいは、見て学ぶという研修があると思います。そうしたことを適宜民間さんも行っている。その一端を、多分、今、この資料で紹介してくださっているんだろうと思います。

また、そのことによって、お互いの園の情報交換ということもなされる。そうした横のつながりもまた見てとれる。そんな取り組みなんだろうと推測いたします。

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

民間さんの研修、ごく一端ではありますが、今回、このように資料を提示して、具体的にお示しいただき、また、口頭ではありますが、認証の立場から真木先生に補足していただく中で、民間、認証問わず、それぞれ適宜、また、時期に応じた研修をなさっている。

さらには、そうしたものを年度当初に計画を立て、さらにはしっかりと報告書などを通してフィードバックもきちんと行われている。そういったことが改めてこの協議会の中でも確認ができたのではないかと思います。現状確認というところでも一歩進んで把

握ができたということになるやもしれません。

○三橋副会長 ちよつと1点。

○師岡会長 はい、どうぞ。

○三橋副会長 今回は長岡委員のほうからお示しいただいたんですが、改めて公立と民間と両方見させていただいて、似たような研修をされているところとか、お互い参加できるもの、あるいは、共有できるものとかというところがどの程度あつたりするのかなと思つたりしたんですが、主催者が民間保育園協会ですとか社会福祉協議会というところに参加できないのか。

逆に、都がやっていたりとか、保健所がやったりとか、警察がやったりとかというのは、公立のほうでも一緒に出たりとかあるかもしれませんし、中には、公立保育園の主任会のところに民間の方が出ていたりとかもあると思うんですが、ここら辺の実態というのがどうなっているのかなと思つたりしたので、事務局のほうで、これを見たと上で、もう一度整理とかがもしできたら、まとめていただきたいなと思つたりしたんですが。

○師岡会長 事務局、いかがですか。

○鈴木課長 三橋委員からお話がありましたように、民間さんについては、民間保育園協会であつたり、そういう団体の主催のところに相当行かれていると思います。そういうところについて、公立から出ていけないかというところがございます。

例えば、保健所で実施している講習会であつたり、あるいは、消防署でやっているAEDですとか、そういった部分については、同様のものを行っているのかなと個人の限りでは思います。

あと、市のほうで研修を行う際にご案内をいたしたりすることもあることは聞いているところです。こういうのを広げていければなと思つてはいますが、細かな部分、これとこれは共通だなという、ぱつと見た限りではわからない部分もいっぱいありますので、正確にはお答えできないかなと思います。

○三橋副会長 研修に関しては、どちらがどうという話ではないのかなと思つたりはするので、このあたり、どこまで共有できたり、一緒にやれるのかなというところはちよつと思つたりはしたんです。もちろん、研修を受けた上でそれをお互い共有してもいいのかなかもしませんが、もしそういうのができたら、より小金井の保育を考える上ではいいのかなと思つたりしたので、ちよつと発言させていただきました。

○師岡会長 真木委員、どうぞ。

○真木委員 真木です。

今のご意見に私も同感なんです、小金井市として、公立、認可、認証問わず、子どもたちのために何か研修、講演会でも何でもいいんですが、そういうものを市全体で取り組んでいただけるものがあれば、都心の遠いところまで行かなくても身近にできるんじゃないかと思って、ある方にちょっとお尋ねしてみたら、場所がない、集まる場所がないんですよというお話を伺って、ああ、そうなんだ、そういうものなのかなと思ったりしたんですが。

一斉に一同が集まらなくても、日にちを分けてやってもいいと思うし、分科会形式でやってもいいし、いろんな方法があると思うんですが、何かそういうことを……。

今お聞きしたら、年に1回ぐらいは全体でというお話をお聞きしたんですが、もう少し回数があっても……。認可、認証、公立も隔てなく、子どもたちのために何か研修ができるといいのかなと思います。

研修にお金がかかるというのものもあるかもしれないんですが、講師としてはたくさんいそうな気がします、いろいろと。なので、ボランティアでいいよ、行ってあげるよという方もいらっしゃると思うので……。いないですか。

○師岡会長 いると思います。

○真木委員 たくさんいると思いますよね。なので、そういう方をお呼びしてみんなが勉強会したら、質の高まりができるんじゃないかと常々思っております。

以上です。

○師岡会長 どうもありがとうございます。

長岡委員はいかがですか、今のご意見。

○長岡委員 すいません。1点訂正があるんですが、公立と民間で合同の研修を年1回というのは、去年ではなくて、おとしに民生委員と児童委員の方々も参加された、そこで虐待のお話があったと思うんです。それにはいろいろな方々が参加されていたんです。すごくそのときによかったなと思ひまして、民間園も公立の先生も民生委員さんも皆さんで小金井市の子どもを考える、子どもたちのことを考えるという場があったんじゃないかなと思っております。

昨年度はそういったことは……。ごめんなさい、私が都合があつて参加しなかったのかもしれないんですが、そういったことでした。すいません。

○師岡会長

ありがとうございました。今、副会長さんの発言から、今後の対応の話にも少し意見が広がっていると思います。また次回以降、先ほども申し上げましたが、保育の質の維持向上、もちろん、保育者の資質向上も含めて、やはり研修は不可欠なことであり、それは、公立さん、民間さん問わず、いずれにも必要なのは皆さん共通の思いだろうと思います。

しかし、なかなか現状では、保育課さんのほうで民間さんの動きまで十分把握し切っているかという点、なかなか現状では難しかったということもある中で、今回、こうして改めて、一部ではありますが、資料を示していただく中で、先ほどもコメントさせていただきましたが、民間さんは民間さんで大変充実した研修をなさっているということが垣間見られましたから、ぜひ今後は、それをさらにお互いが交流するという点も含め、そして、小金井市全体の保育がまた向上するためにも、そういった機会をつくっていくということは、恐らく委員の皆さんの共通の思いだろうと思います。

ぜひそのためにも、また今後、やがて報告書を取りまとめていくことになると思いますが、まずそうした民間さんの動きも保育課さんのほうでちょっと把握していただきながら、一緒にできるもの、あるいは、それぞれの運営母体、設置母体の違いによって、その研修、また、内容や質に特化しながら取り組むものもある。そういった上手な合同、ないしはすみ分けの研修がバランスよく配置されていくことを願いたいと思います。

ただ、そのときに、ちょっとしゃべり過ぎて申しわけないんですが、多くの方は多分ご存じだとは思いますが、こうした民間さんの研修の動きも保育課さんが十分に現状を把握し切れていなかったのは、保育課さんの怠慢なのではなくて、誤解を恐れずに言えば、管理監督、指導するというような窓口が、民間さんに関しては市にはなかったというところがやはり多いんだろうと思います。

あるいは、東京都の認証保育園も同じだと思いますが、基本は東京都のはずですよね。そういったところがこうした研修1つも十分には把握し切れていないというのが、多分これは、小金井市だけの現状ではなくて、いずれの自治体でも見られる。

しかし、これも皆さんご存じかもしれませんが、今年から子ども・子育て支援新制度がスタートして、これからいよいよ市町村が実施主体になるということがはっきりしましたので、これからは積極的に保育課さんを中心にそうした研修の動きも、公民間問わず把握しながら、先ほどの繰り返しになりますが、合同で研修できること、あるいは、それぞれの運営母体によって特化した研修、そういったプログラムをバランスよく、現場の

方たちとも相談しながら進めていくことがきつと課題になっていくんだらうと思います。

そのことがようやく今年度からスタートし始めているところですので、今回、こうして、2園ではありますが、資料をお示しいただいたことが一ついいきっかけになると思いますし、また、このことも踏まえて、次回以降、より今後の対応というところの意見集約にもつなげていければなと思います。

では、民間さんのほうから出していただいた研修の資料に基づく意見交換ということでは、ここで一区切りさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、現状確認並びに課題の抽出というところで、再び主要な論点というところに戻って、先ほども言いましたが、できれば今日で一つ、現状の確認と課題の抽出はめどを立てたいと思っておりますので、残り時間の中で集中的に意見交換できればと思います。

主要な論点の大きな2の現状における市の課題の(3)には、市が保有する保育施設の維持管理に向けた対応というところがあります。これも、恐らく、2回目だったかな、資料を出していただいた施設白書並びに第3次行財政改革大綱でしたか、そちらのほうで具体的に中身が示され、今、粛々とそれが進んでいる最中だらうとは思いますが、この市が保有する保育施設の維持管理に向けた対応というようなところで、委員の皆様から何かご質問なりご意見があれば頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○大塚委員

今後の会議の進め方で、この課題の抽出なんです。市の公共施設の管理については確かにテーマの中に入っていて、私もそういうことをテーマとして話していくということを最初の会議で発言したと思うんですが、前回配られました資料で、総合的な見直し。これは当日配付ということで、必ずしも細かいところまでよく目を通す時間がなかったんですが、こういう会議をしながら、家に帰って、時間がありましたので、隅々までよく読みましてね。

あと、運営協議会での質疑応答の資料も出していただいて、非常に参考になりました。それで、これをよく読んで、改めてわかったことと、協議会設置要綱の中の検討事項とどういう関連性があるかということで、重ね合わせて、そういうことも、何を感じたかということを含めまして、今後の会議の進め方について、ちょっと私の意見を申し述べさせていただきたいと思えます。

それで、前回の会議では、この総合的な見直しについて、藤井課長補佐から概要の説明

がありました。その中で、保育施設の総合的見直しがなぜ必要になったのか。この辺の背景もこの中に垣間見れるわけです。

それから、保育を含む子育て全体のさまざまな重要課題の取り組みの課題についても説明がありました。

それから、さらには、保育事業の現状認識といいますが、その説明として、小金井市が抱える、子育てを含めた、いろいろな保育も含めたいろいろな課題が山積する中で、財政が厳しい環境下で、予算上の問題や体制上の問題でこれらに十分対応できているとは言いがたいという指摘があるわけですね。

この問題は、個々の保育内容とか個々の保育園の問題としてではなくて、市が抱える保育事業全般の解決すべき、いわば構造的な問題といいますが、そういった取り上げ方と理解されるわけです。

さらに、この問題の解決への取り組みとして課長補佐から説明がありました。たしか総合見直しの資料のほうに詳しく出ておりますが、3つの具体的対策が持たれたと。これは小金井市の保育事業の全般を総括したような記述になっておりますので、その点を押さえておく必要があると思うんですが、1つ目は、のびゆくこどもプラン小金井で、子育て、保育、全般について何をすべきかということが既に検討されて、計画が立てられたわけです。1つの対策は、一応そこまでは終わっている。

私、前々回ですか、What to doと。何をすべきかというのがここに盛られていると。ただ、ハウツーの部分がまだこれからですねということで、実は、この保育の総合見直しを詳しく読んでいますと、ハウツーが実は出ているんです。

その施策が2つありまして、1つが公立保育園の運営形態の見直し、もう1つが保育事業全般の運営方式の見直しと。先ほど、私、前回会議録の訂正について、保育事業全体の運営方式の見直しということが既に方針として示されているんです。今回の協議会で我々の議論と意見を求められている主要な点に、構造問題解決への対策について我々はどうのように考えるのかということが盛り込まれるべきだと思います。

それで、会議における本会議のメインテーマは、この対策の中の公立園の運営形態の見直しと。運営形態の見直しと言われていますが、民営化のことを意味するわけです。これはやはり議論すべきであると。

それから、あとは、公民の役割分担とか、そういうことがありますが、これは、事業の運営方式の見直しというほうに属すると思うんです。設置要綱の検討項目の中で、現

状況確認とか、3番目に子育てセンターですか、子育て事業……。

○師岡会長 子育て支援ですね。

○大塚委員 子育て支援というのがあります。

○師岡会長 地域の……。

○大塚委員 地域ですね。

○師岡会長 はい。

○大塚委員 これは新しい新制度の中で今後果たしていくべき運営方式の見直しというところに合致すると思うんです。

それで、もう1つの2番目の市が設置する保育所の管理運営の効率化という項目がございますが、これが、まさに、先ほど、総合的見直しの中で示された……。市が設置する保育園とは公立保育園のことですから、管理運営の効率化というのは、これは構造的に民営化ということをごここで検討してほしいということで、それがメインテーマに合致する項目なので、今後もこの会議の中で、メインテーマでもありますし、時間を十分割かれるべきだと思います。

それで、次の検討項目で、次回ぐらいに入ってくるのかわかりませんが、このときに、しっかりとこの内容については議論する。私の意見としまして、と思います。

最後に、もう1つですが、サブテーマの「公立と民間の役割分担」ということですが、これは、これだけ取り外して個別の議論をしますと、現状の体制の中で、民間と公立園が役割を分けるというのはどうも現実的じゃなくて、これまでの会議で皆さんのご意見を伺って、何で分けるんだと、公立も民間も同じことをやっているじゃないかと、全体のレベルを上げるほうがいいじゃないかということで、多少違和感というか、私もちょっとこの問題は、メインテーマとセットで、あくまでもセットで議論しないと、どうも空回りしちゃうというか、あるべき姿が見えてこないと思うんです。

ですから、今後、この件について話す場合には、やはりメインとサブテーマをセットの形で、その中でどうあるべきかという議論をすべきだと思います。

以上です。

○師岡会長 ありがとうございます。先ほど私が申し上げた現状確認、ないしは課題の抽出ということは、主要な論点に示されている現状における市の課題の3項目だけではなくて、公立保育園さんが果たしている役割、あるいは、運営方式の見直しという点も含めて、現状どのような方向性があるのかということの把握と課題の抽出も含めて申し上げており

ます。

先ほども、きょうでその辺を少しめどをつけ、次回以降、今後の対応を議論したいということは、やっぱり、今言った、そこまで含めて、最低限情報共有をまずしたいということなんです。

おっしゃるとおり、市が保有する保育施設の維持管理ということが、当然公立の役割なり運営方式の見直しとつながっているというご指摘はそのとおりです。時間の限りがありますから、今の発言を受けながら、主要な論点であります、大きく4番目の運営方式の見直しまで視野に入れて、改めて現状確認、あるいは、課題の抽出ということを引きようはめどをつけたいなと思います。

そういう点で、大塚委員の発言も受けとめましたし、ほかの委員の方たちもまたご発言いただければと思います。

○三橋副会長 よろしいですか。

○師岡会長 はい、どうぞ。

○三橋副会長 あと4回ということで、どういった話の進め方をしていくかというところについては、一定の共通認識をする必要はあるというところはおっしゃるとおりで、さっきも大塚委員のほうから、運営方式の見直しについて、議題として出して、十分時間を割くというのも今ご意見があったんですが、

ただ、一方で、その議論をしていくに当たって、課題の抽出であり、その中での最終的な結論というのが、運営方式の見直し、民営化の是非を問うのがこの協議会の役割かという、僕自身は、民営化の是非を問うことがこの協議会の役割ということではなくて、まさに、先ほど、一番最初に会長がおっしゃられた、保育の中身をどうして、どういうふうに質を高めていくのか、

小金井の公立、民間を問わず、現状の課題は何なのかということを引きつとらきりした上で、管理運営のあり方をどうしていくのかというところを、しっかり議論することが大事であって、まずその運営方式について何か結論を出すということではないと理解をしているんですが、そういう認識はよろしいですか。

○大塚委員 冒頭、会長からのお話で、大所高所から、一部構造的な問題、今の保育の体制も見直しをしないと、いろいろな子育てや保育の課題に十分対応し切れないということは、いろいろな箇所にそのように記されているわけです。

このことをやはり議論すべきだと。細かい問題というか、部分的な問題もありますが、

やはり、骨格というか、そこを何とかしないと、今後の小金井市の保育はうまくいかないという問題提起がされているわけですから、それについてどういうふうにか考えるか。私は私の考え方がありますので、それについて、時間をいただいて、意見を言いたいと思っています。

○三橋副会長　それであれば、逆に私のほうも言いたい意見がございまして、それは何かといたら、やはり保育の中身です。保育の中身であり、内容であり、まずそういったことを理解していただいた上で、じゃあ、それに対して、運営方式なり運営形態なりという議論がまずあるのではないかと。

保育の中身が理解されてない中で、まず、方式なり形式なりという議論をされてしまうと、そうすると、子どもたちのため、ユーザーのためということが理解されない。それがされずに、まずお金の話だ、人の話だという話になってくると、これは話の議論の順番が違うんじゃないかと思っておりますので、まずしっかりとそういったところを、ちゃんときちんと共有してからやるということであれば、僕はそれはそれで一つだと思います。

まず最初に運営方式のあり方、そこについて議論しましょうということであると、それは順序のやり方が逆ではないかということで、まずメインテーマをどうするか。

僕は、議論として、運営方式なり何なりの議論を拒否するわけではないですし、それについて議論する議論するのはやぶさかではないと思っておりますが、そこに至る過程として、保護者がどういうふうにか考えているのか、あるいは、子どもたちにとってどういうことがあるのか、そういったことがまるっきり総合的見直しの中に書かれてないんです。

書かれてない中で、今、課題はこうで、結論はこうだから、これをやるためにハウツーはどうですかという話をされたとしても、それはまた違った話になってしまうというところを懸念しています。

○大塚委員　ご懸念のことはわかりますが、民営化を進めるということで、どういう問題があるのかということは、民営化の是非ではなくて、民営化の進め方の問題なんですよ。

今、三橋副会長が言われましたので、私、参考までに、小金井の一般市民はどう考えているのかというアンケートがあるんです。それについてちょっとご披露したいと思います。

これまで配付されてない資料で、2つほどポイントがありまして、1つは、今言いま

した、小金井市の一般市民はどう考えているのかということ。もう1つは、他市が、小金井市を含めて多摩地域に26市ありますが、他市における保育事業の民営化、動向がどの程度進んでいるのかということについて、資料はいろいろと調べればわかるんですが、その点について概要をちょっとお話しして、今後の議論の参考にさせていただきたいと思うんです。

それで、まず一般市民のアンケートの結果ですが、昨年行われました市政全般、これは毎年やっていると思いますが、市政全般にかかわる市民意識調査。この中では、今後、小金井市が優先的に取り組んでいくべき項目は何か。ご存じかもしれませんが、1番目は財政の健全化です。財政問題というのを市民が非常に重要に捉えているわけです。財政の健全化。2位がごみの減量、資源化の取り組み。3番目が子育て・子育て環境の充実、保育も含めてでしょうけれども、3位なんです。そして、4位が高齢者を社会・地域全体で支えるというぐあいになっていまして、まず最優先で財政健全化をやりなさいという市民の声があるというのが一つです。

それから、ことしになって、つい最近ですが、3月に第4次行革大綱の策定に当たって、市が行った市民意識調査で、保育園、学童保育、児童館等のサービス提供者、これが運営主体ですが、これについての設問がされていまして、資料そのものももし必要であれば、市のほうでご用意いただきたいと思うんですが、ホームページにもアップされていると思うんですが、これによって、その回答結果がどうだったかといいますと、アンケートの先は一般の市民の方です。

4つの設問があつて、1番目は、保育園、学童保育、児童館等は市の職員によって運営すべきであるという意見の方が8%。それから、民間事業者によって運営すべきであるといった意見が8%、市職員でも民間事業者でもどちらでも構わないというご意見が11.4%。4番目に、市職員でも民間事業者でもどちらでも構わないが、財政支出が少なく、かつ、質の高いサービスを提供できるものがサービスを提供すべきである。これが何と68.6%あるわけです。

ですから、その他は1.7%とか、無効が2.3とありますが、つまり、一般市民は保育園は公立でも民間でもこだわらない、どちらでも構いません。ただし、財政コストの低いほう。財政事情を考えた場合、財政コストの低いほう、そして、質の高いサービスを受けられるものを望んでいるというアンケートの結果があるわけです。私の個人的見解を聞かれれば、私も4番目の68%の市民の1人に入ると思います。

次に、2つ目のポイント、他市の動向ですが、多摩26市のホームページを時間があつたので満遍なく全部調べたんですが、意外なことに驚かされます。まず、26市のほとんどが既に保育園の民営化計画を作成しています。そして、その大半が民営化を実施済み、ないしは、実施段階、実施中ということで、その内容もさまざまなんですが、公立園を全廃したところもありますし、半分以下に集約したところもかなりあります。

当初は公設民営方式という、聞かれたことがあると思うんですが、設備は市が保有して、運営だけ民間に任せると。公設民営方式を推進した自治体が多かったんですが、最近では、そういうところを含めて、民設民営に移行するところがふえているんです。最初から民設民営を推進しているところもあります。

このような状況の中で、残念ですが、いまだに民営化すべきか、すべきでないかという是非論をしているところは是非論をしているところは、残念ながら、我が小金井市ぐらいなんですね。ほかにあつたとしても、非常に少数だと。この事実についていろいろ驚かされるわけですね。

すぐ近隣の市ですよ。民営化は相当進んでいます。実施していますし、そういうところからいろんな情報を得ることによって心配事は確認できると思うんですよ。どうしたら民営化がうまくいくか。

一般状況として、自治体はどこでも財政事情はみんな厳しいです。小金井市だけじゃなくて、みんな厳しいです。ただ、民営化計画の事例では、民営化の理由と目的ははっきりうたっています。

一言で言いますと、表現は違いますが、民営化の理由と目的は、より多くの財源効果を得ることによって、ますます増大する保育ニーズに適切に対応するためにやるんだという趣旨ではっきりうたわれているんです。

ですから、このような決断は、もちろん、市の責任で行うことではありますが、行政と民間の事業者、それから、保護者、市民が一体となって協力し合って初めてうまくいくということは言うまでもないことだと思うんですが、

そういうことですから、小金井市もぜひ、行政の方は特にそのことに取り組んでおられるでしょうから、ぜひこのような内外の現実から目をそらさずに、民営化の是非議論から脱却して、一刻も早く民営化をどうやって進めたらいいかという具体的検討に入るべき時期だと思います。

その辺のことですが……。あとちょっとで終わります。すいません。当然のことですが、民営化を拙速に進めることがないように、どこの市でも民営化ガイドラインの検証とかフォローアップに多くの時間と労力をかけて、綿密な計画のもとに進められているのが実態です。ですから、我々は、他市の先進事例からもっと多くのことを学ぶ必要があると思います。

余り1人で長くしゃべってしまうのもまずいので、止めますが、今申し上げたことも参考にさせていただきたいと思います。

○三橋副会長 僕と大塚委員でご議論していてもしょうがないなと思っていますし、僕自身、今言ったことを全部十分認識をしています。アンケートの結果もどういうふうに解釈するかというところでして、財政問題が小金井市で大事だと。僕自身、長期計画審議会で財政問題について副会長としてプレゼンをしました。財政問題の重要性ということをも市民に対して訴えた人間の1人です。ですので、財政問題が重要なのは十分わかっています。

ただ、一方で、先ほどの市民の意見として、財政が大事だ、だからこそ、それイコール全てにおいて財政健全化を第一に、第一というか、財政健全化を進めてすべのサービスを切り捨ててくださいとか、保育について民営化をしてくださいとか、そういったような意向を出しているわけではないですと。この解釈の問題だと思います。

先ほどのアンケートの、公立と民間とどちらが、学童ですとか児童館とかの運営をすべきかについても、僕は逆の解釈をしました。公立でも民間どちらかというのはそれぞれ同じ8%の一方で、どちらでもというのが68%と同じだと。当たり前ですよ。僕もやっぱりこういうふうに答えると思うんですが、公立・民間とあって、財政支出が小さくできて、かつ、質が高い。そこがやるべきだということは、まさにそのとおりだと思います。

ですので、当たりのことであって、実際、中身はどうなのか。財政として、公立と民間でどうか、あるいは、実際、質の中身はどうかというところをまずしっかりと議論することが大事なんじゃないかと思っています。

これは我々の運営協議会でも話をしていますが、民営化をしたとしても財政効果が出ないということは担当部長さんがおっしゃられています。

○大塚委員 それはない。

○三橋副会長 そこもまずこの検討協議会では確認をしてないですよ。だから、まずそういったことを含めて、まずしっかりと……。

○大塚委員 それは議論しませんか。

○三橋副会長 いや、だから、その議論を、ここでやるような議論なのかというんですよ。ですので……。

○大塚委員 いいかげんにやるわけにはいかないの、財政的な問題というのは、やはり皆さん納得がいくような、そういう……。

○三橋副会長 ちょっといいですか。発言がまだ終わってないんですが。僕は、そういった議論をするには、あと4回の議論の中で、たった4回でこの大事な問題を軽々しく結論なり、あるいは、今、民営化の是非を議論する時期じゃないとか、断定的に言われているんですが、そうすると、議論の余地がないんですね。

僕自身は、そういった議論をする上での前提といったところを踏まえるような会議であるのであれば、別に議論することはやぶさかではないですし、実際、公立保育園の運営協議会の中ではそういったことを踏まえた上で求めているんです。議論をするために市のほうに資料として出してほしいと。そういうのを一個一個やっているんです。

この協議会の中で同じことをやるというのであれば、僕は全然問題ないです。ぜひやりましょう。であれば、4回でできるんですかというところが、まず僕はきちんと確認したいんです。

僕は、この協議会の中でできることは何かといったときに、公立も民間も含めて、お互いの立場でどういったふうに協力し合ってやることができるのか、どういうふうに保育の質を高めていくことができるのか。そういったような話というのは、僕は十分会議として成果を出すことができると思っています。

そのための会議であれば、ぜひしっかりと議論したいなと思っているんですが、今、おっしゃられたような議論の仕方をするのであれば、ここは入り口で対立するだけの場になります。そういった一つ一つの議論をこの場でやるというのであれば、僕はやぶさかではないです。

○大塚委員 よろしいですか。

○師岡会長 はい、どうぞ。

○大塚委員 それでは、対立の場とおっしゃいました。議論というのは、対立して初めて本質が見えるというか、みんなが、ああ、そうだ、そうだと言っているのが議論じゃないと思うんです。多分、対立というのはあると思います。

運営協議会のほうの議論、質疑応答を全部読ませていただきました。会議録もおおむ

ね読ませていただきました。まだアップされてないのがありますが、どういう議論をされているかは私も承知しております。

それで、議論が進んでないんですね。一方は、結局、民営化を前提とせずにいろいろ議論していくということですから、民営化をどうやるかというようなことにはならないわけです。どういう問題が発生するかというの。

ですから、私、この覚書は非常に違和感を感じまして、民営化を前提にせずというのは、佐久間委員長と三橋さんと共同委員長されていますよね。だから、覚書をちょっと修正されたほうがいいんじゃないかと。差し出がましいことを言っちゃあれなんですけど、そういうことを検討できませんか。

というのは、修正というのは、民営化を前提にせずではなくて、民営化を含めてあらゆる可能性を検討するというのが通常の姿だろうと思うんです。

○三橋副会長　　そういうふうには書いてありませんか。

○大塚委員　　そうになっていません。「民営化を前提とせず」となっています。ですから、「民営化」という言葉すらもはばかれるというか、要するに、民営化を前提としないという文言が覚書の中に入っているわけで、私は、こういう議論をするためには、あらゆる可能性をということですから、民営化も含めてなんですよ。

かつ、先ほど、私、ほかの市がどういう動きにあるかということを見た場合に、ほかはどんどんやっているわけです。

それで、もう1つ申し上げますと、国や都から、民営化によって、助成金、補助金が相当多額なものがもらえるわけです。それが目的じゃないんです。それが理由なんです。

目的は、そういうものを使って保育事業をもっとよくしよう。民間活力をもっと導入、より積極的な活用ということがその中にあるわけですから、そのためには財源が必要なんですよね。待機児童もそうでしょう。新制度への対応はみんなそうなんですよね。小金井市はそんな裕福じゃありませんから。

そういう助成制度を使わなくてもやっているところってどういうところか。裕福なところかといいますと、逆に財政的に裕福な市は、例えば、どこも実名は言いませんが、そっちのほうが助成制度をうまく活用して、保育事業をどんどん充実させているわけです。小金井市は、それより厳しい財政状態にありながら、助成金は要りませんという感じで、今の体制を守っていかうというような、非常に私には理解できない状況が続いていると思います。

これは1年や2年でできることじゃないんです。やっぱり、施設の建て替えについても同じです。5年以内に起こる問題じゃないんです。20年、30年の中で、大規模補修も含めて、将来世代のためにやっつけていかなきゃいけないことなので、現在の保育園に行かれている学童にどういう影響があるかというのは、それはそれでそういう影響は余りないようにやらなきゃいけませんよ。

ただ、将来まだまだ何倍もの児童がいるんです。また、入れない人すらいるわけです。保育の内容をよくしろといったって、そこに行きたくても行けない人もいます。そういうものに金がかかるわけですね。ですから、総合的に、大所高所から考えてというのは、そういうことだと思えます。

ということで、私は、民営化推進論者というとおかしいけれども、民営化は非常に妥当な方法であるし、かつ、ほかの先進事例がいっぱいあるわけですから。何も小金井が率先してやろうということじゃなくて、二回りも三回りもおくれて、もうそろそろやろうよという話じゃないかと思うんですが、いかがですかね。

○師岡会長 彼の委員のご意見も言っていただきたいところなので。

じゃあ、八下田委員、どうぞ。

○八下田委員 運営協議会のほうでもいろいろ話をしているんですが、実際に運営協議会の委員で、国分寺の事例を見に去年行ってまいりました。どのようにして民営化を進めてきたか、公立園がこれだけあったけれども、こういうふうにして、5年かけて、10年かけてやってきたというのを、直接市の職員の方から聞いて、資料も大事な資料をいただいて勉強してきました。

そのときに感じたのは、公民に一体感がすごくあって、市が全て公も民も管轄しているという感じがあり、その中で、公を中心に、民と一つの輪になって連携しているという感じがあったので、それと比べると、まだちょっと小金井はその連携が足りてないんじゃないかなと、この会議に出て感じております。

小金井だけがおくれているということは重々承知で、それは、逆に考えて、何でそれほどおくれているのかと考えたときに、民営化することが先進的で、全てすばらしいことなのかと原点に立ち返って考えたときに、民営化してないことの意味というのがあるんじゃないかなと。

先ほど会長もおっしゃっていましたが、市の職員の怠慢だけでなく、何かそこに意味があるのかなと考えたときに、民営化の話をしているので、小金井の公立のとあえて

言いますが、公立が残っている意味が、保護者の中で、小金井の保育は他市に比べてすばらしいと。職員の質もいいですし、考え方も子どもに寄り添った考え方であるということで、脈々と何十年も続いてきたものがあって、民営化を検討はしてきた歴史はあると思うんですが、あえてするに至っていない。

したことによって何か問題が生じている市区町村の話もありますので、やはり民営化することが先進的で、全てすばらしいことで、小金井が二回りも三回りもおくれて、それがいけないことなのかどうかということもちょっと疑問に思ったので、発言させていただきました。

以上です。

○師岡会長 ありがとうございます。

たびたび資料として触れております、一番最初に配られた資料の3の保育検討協議会設置に係る主要な論点について、先に私からも、(3)番目の市が保有する施設の維持管理に向けた対応、その辺の現状の確認と課題の抽出につながると投げかけたわけですが、同時に、それがおのずと大きな3番目の公立保育所の果たしていくべき役割、ないしは、4番目の運営方式の見直しとやはりリンクする課題だということもありまして、今、その議論のほうに少しずつ話が向いているわけなんです。

その中で、アンケートなども踏まえながら、大塚委員のほうからご意見も伺い、そして、市民というお立場からも、また八下田委員のほうからご発言いただきました。

ほかの委員の方々、いかがでしょう。民間さんの立場、あるいは、審議委員、また事業者さんという立場で、これから市の保育行政を充実させるために、市が現在運営している公立のあり方、役割、あるいは、運営方式の見直しというようなところで、現状の確認として、もっと情報として知っておくべき点、例えば、これから意見を出していく上でもしっかりと確認しておかないと、なかなか生産的な意見にもつながらないというようなこともあろうかと思っておりますので、その点も含めて何かご意見いただければと思いますが。

石黒委員、いかがですか。どうぞ。

○石黒委員 私も詳しくないんですが、今までの話を伺って、民営化を進めるかどうかということで、先ほどの国分寺の例を伺っても、今やるべきことというのは、公民が一体になって、研修の形にしても、新制度になってどのように変わっていくかということも、私は余り承知していないんですが、市全体としてそういう方向にどんどん進めていく中で見えて

くるんじゃないかなと感じます。

○師岡会長 長岡委員、真木委員、いかがですか。今のやり取りに関するご感想でもいいとは思いますが。

○真木委員 真木です。

民営化に当たっては、どの市でもすごい時間をかけてやっているんです。それで、私、小平市に住んでいるんですが、小平も最初の民営化は大変でした。やっと4月から園舎が建ってという感じで、7年かかって民営化に移っているという、ご存じだと思うんですが、そういうのもあるし、

私が、今から十数年前に、都立だったところ、東村山なんですが、都立の保育園だったところが私立に移って、そこを民営化するというので、最初の民営化ですよ、市においては。それを受けたものの1人なんです。

やっぱり猛反対。保護者の方が市の公立保育園のよさというのもすごく理解されていて、物すごい歴史のある保育園だったので、民営化に猛反対の中を社福のその当時主任として受けてやってきたんですが、物すごい努力が要りました。一つ一つの行動を見られている感じで。民営化を受けた立場もあるし、今、皆さんの民営化のお話。

社福が受ける場合は、すごく今までのいろんな経験とか歴史とかがあっていいと思うんですが、企業が受けた場合に、まあ、企業でもいいんですが、保育の質がしっかりしていればいいと思うんですが、民営化に急ぐばかりに、保育の質、その他、いろんな面でありますよね、が落ちてしまったり、競争主義に入ってしまったら、子どもたちが犠牲になるんじゃないかと思うんです。

だから、あと4回で話の結論というのはちょっと急過ぎるかなと。そこで働いている人たちの生活、その他、思いもあると思うし、保護者の方の思いもあると思うので、やっぱり丁寧に進めていかないといけないのかなと思います。

かといって、民営化されて、それが悪いかというのは、私は、自分が受けた立場で、それではない、そうとも言えない。一生懸命受けますからね、受ける側はね。ただ、そこで働いていた職員の方が皆さんいろんなところに立ち去っていくわけです。都の職員として老人ホームに行ったり、いろんな施設、児童相談書に行ったりとか、保育の現場から離れたところに皆さんが行ってらっしゃって、すごくそれは気の毒だなと。受けた側としては物すごい心を痛めながら。

そこで園長先生をやっていた方も、どんな感じになっていますかという感じで、去ら

れた後も交流ができるように、卒園式とか行事にお呼びしたりとかという。民営化された後の話のことなんですが、そういう交流をしながら受けてきましたので、保護者の方もすごく理解してくださったんですが、それには長い年月をかけて、すごい説明会をしてという形でやってきましたので、早急に急ぐのはちょっと危険かなと思ったりします。自治体の事情もおありでしょうけれども、そういう感想です。

○師岡会長 ありがとうございます。

長岡委員、いかがですか。

○長岡委員 ちょっと話がまとまらないかもしれないので、とてもお聞き苦しいかもしれないんですが、私はこの会議に出させていただいた当初からとても思うことは、公立と民間というくくりが非常に強い会議だなと思っていて、本来は小金井市の子どもたち全ての検討協議会であるべきだなとすごく感じて、今もそうなんです。

例えば、先ほどのご意見の中に、公立の保育園がすばらしいという保護者の意見があるというのも、とても私にとってみたら危険な響きではあるんです。というのは、私たち民間の中でもすばらしい保育園もありますし、中には、そうではない保育園も必ずあると思うんです。

ですから、公立保育園全てが小金井市はすばらしいと、そういう意見もある。でも、そうじゃない公立保育園もあると考えるのが普通、普通というか、いろいろな考えがあって当然じゃないかなと思っています。

そういった中で、先ほどの、私も本当に知識がないので、いろいろな行財政のそういう資料もまだ読み切っていないんですが、具体的な事例の中の一つとして、公立と民間の格差ということは非常に私ども民間保育園は感じています。

具体的に申しますと、平成21年9月25日に小金井市の民間保育園長会がございました。そのときに、この資料は出してもいいということでお話をいただいているので出させていただきますが、課長名で、保育士等給与費調べというものを依頼されました。それは、公立保育園と民間保育園の給与の格差はどれぐらいあるんだろうかというものでした。

そのときには、公立保育園の平均給与が大体保育士は200万円ぐらい。年間です。平均年齢も37歳4カ月というものを出示いただきまして、民間園もそれに伴って出したんですが、正確な集計は聞けてはいないんですが、大体民間園は300万ぐらいだと思われま。平均年齢ももっと低いという実態がありました。

平成21年の資料ということで、少し古いとは思いますが、今にしてそれほどこれが大きく変化しているのではないんじゃないかなとは思っております。

また、具体的に言いますと、公立保育園には、2カ月に1回、5人の専門の先生方が見えて、臨床心理士であったりとか、作業療法士であったりとか、そういう先生方が1日かけてお子様を見ていただいています。民間保育園では、上限十何万円という、年間十何万円という中でやり繰りしなさいということで、専門の先生をお呼びするのにも、とても5名の方を、2カ月に1回という補助金は出ていないのが現状です。

また、園庭がない園もありますが、小金井市の子どもたちのことを考えて、また、平米数もぎりぎりで行っている園もたくさんあるんですが、公立保育園に入っている子どもたちも、保育園を待っている子どもたち、そして、保護者の方々もいらっしゃるの、民間園は、本当に公立保育園に比べたら、ぜひ見学に来ていただきたいんですが、狭いですし、古いですし、園庭のないところもありますが、できるだけ平米数ぎりぎりに子どもたちの受け入れをしてあげたい、そういった保育をしています。

ちょっと話がいろいろ飛んで申しわけないんですが、とても簡単に言うと、今ちょっとお話を聞く中で、例えば、5人家族がここに1つあったら、この家族のあり方を議論することはとても大事だと思うんです。ですが、この家族が食べていくためのお給料をお父さんがとってきてくれなかったら、理想の家族のあり方を議論しても、食べていかなければいけないと思うんです。私は、お兄ちゃんは大学に行けるけれども、一番末っ子は高卒で働いてねというのはおかしいなと私は思うんです。

同じように、小金井市の子どもたちみんなを考えたときに、みんなが少しでも幸せにというか、子どもらしく生きていくためには、じゃあ、何を今しなくちゃいけないのかと考えて、優先順位をつけていく必要はあるんじゃないかなと、今、いろんな方の意見を聞きながら、私なりに考えているところです。うまく伝わらないですが。

○師岡会長 伝わっていると思います。貴重な意見ありがとうございます。

○長岡委員 すいません。

○三橋副会長 いいですか。

○師岡会長 はい、どうぞ。

○三橋副会長 いろいろありがとうございます。僕自身も、この検討協議会がどういう議論になっていくかというのは、ここに来るときから思っており、今、長岡委員がおっしゃったとおり、公立と民間というようなくくりがかなり強いようなニュアンスになって、そのと

おりだなと思ったりもしました。

おっしゃるとおりで、公立保育園の代表としてきてはいるんですが、個人の立場で申し上げさせていただくと、公立だとか民間だとか、先程のアンケートと同じですよ。大塚委員が示していただいたように、公立がいいとか民間がいいとか、そういったところについて議論することに意味があるとは思いません。民営化自体が悪だということとは全然思ったりはしていません。

大事なのは、きちんとした議論が4回の中でしっかりできるのか。先ほど、運営協議会のほうで前提に関する話もありましたが、覚書の前提は別に議論しちゃいけないというわけじゃなくて、これは共同委員長の中でも確認していますが、議論を前提としないというのは、議論を妨げないということで、実際、議論はしています。またこういったところで議論することも全然やぶさかでは本当にはないんです。

僕自身、別に民間に子どもを通わせていたこともありますし、それが悪いというわけでもないですし、先ほど長岡委員のほうから、民間の状況に関するお話もいただきましたが、それをどうしたらいいかという議論をすることが、本当にすべきだと思っています。

そういった中で、じゃあ、何が一致点、共有点、できることという形で、この会議の場でできるのか。僕自身は、この会議に来たときに、まず、今、大変なところというのは、やっぱりお金の問題もあるし、人の問題もあるしという中で、ただ、お金の問題をそのまま直接取り上げるんじゃなくて、まずは、保育の中身をよくしていくためにはどういったことができるのか、どういった工夫ができるのか、そういう中で、体制なり人というのはどういうふうに必要なのか、その実態というのが今どういうふうな課題になっているのかということをする中で、公立であり、民間でありという話も出てくるのかなと思っています。

そういった話をきょうも実際したいなと思って、若干用意もしてはいたんですが、今、こういったような話の議論の流れになっていますので、今、お話をしている次第です。

繰り返しになりますが、僕自身、決し委託に関する議論自体をを否定するわけではないですし、一般的に見ても、別に議論をするなどかという父母はないと思います。

ただ、一方で、先ほど真木委員のほうからもおっしゃられたとおり、4回の中で結論を出す、ないしは、この協議会として何か方向性を出すということが、今後の会議の

運営の仕方として実りある協議の仕方になるのかというところが、非常に疑問としてありました。それはメインテーマではなく、いろいろな議論がある中の一つとしてそういう話もあるというのは認識はしますが、じゃあ、どのように議論していくのかというところの進め方については、しっかりとこの場で確認をしておきたいと思ったので、ご発言をさせていただいたというところです。

○師岡会長 ありがとうございます。残念ながら、もうそろそろ終了の時間が近づいております。進行が悪くて申しわけありません。

ただ、次回、またより対応の検討を議論する上でも、時間はちょっとオーバーするかもしれませんが、簡単に事務方のほうから、現状での市が保有する保育施設の管理運営等による対応やら、公立が果たしていくべき役割、ないし、運営方式の見直しについての方向性なり、あるいは、進捗状況など、簡単に結構なんですが、現状確認という意味でもお話ししていただくとありがたいですが、初回にも簡単に説明していただいていると思いますがいかがでしょう。

○鈴木課長 ご質問のお答えになるのかどうか、ちょっとあれですが、施設白書でお示したように、公立保育園、けやき保育園は平成25年10月に改築をした施設ではあるところなんですけど、その他の施設について、一定の建設後の経過があって、いろいろ老朽化もあります。いろいろと支障が出てきている現状です。

現状の中で、その建て替え等、具体的な計画はまだ持ってはいないところですが、公共施設マネジメントの考え方を見ると、今、市役所全体で、施設の今後の管理運営の維持管理について、庁内全体で検討している状況でございます。なので、具体的に、いつの時点で建て替えるとか、そういう形での計画は持っておりません。

それから、あと、運営方式につきましては、職員団体のほうに対しましては、前回お示した公立保育所の総合的な見直しという形で提案をさせていただいているところですが、その中では、委託であったり民設民営に向けた具体的な提案というところまではまだ行われていないところであります。

保育所の総合的な見直しの中の一番後ろのほうに、民間委託とした場合ということで、仮のスケジュール、その後、この期間については2年間延長しているところでございますが、市の考え方といたしましては、保育業務の総合的な見直しを提案して、運営方式については今後の組合との協議、職員団体との協議になっていくと認識しています。なので、民間委託の提案をしているわけではないということは一言申し上げさせ

ていただきたいと思います。

○師岡会長 再確認ですが、そうした公立保育園さんのあり方なり運営方式の見直しも、公立保育園運営協議会さんのほうで特化してご議論されているという認識でよろしいんですよね。

○鈴木課長 公立保育園運営協議会の中で、それに特化するという形じゃないのかなと。

○三橋副会長 それも含めてですね。

○師岡会長 含めてですね。

○三橋副会長 わかりました。

○鈴木課長 公立保育園運営協議会につきましては、もともとは、要綱上では、すいません、手元に資料がないんですが、たしか保護者のほうへ保育ニーズの確認であったり、現状について努力しましょうというような形でお示して、覚書の中でも保育所の総合的な見直しを行っておりますので、それについても議論していきましょう。ただし、民間委託を前提として議論するんじゃないですよという話をしているというところでございます。

○三橋副会長 委託の是非は問わないですが、委託の是非が議論の過程の中で結論が出るのなら、それを議論することはやぶさかじゃないというような表現も入っているわけです。

○師岡会長 そのことも現状確認としては大事なことだと思われましたので、ちょっと発言させていただきました。

では、お時間も過ぎております。

○真木委員 すいません。

○師岡会長 はい、どうぞ。

○真木委員 ごめんなさい。私、15年ぐらい前と言ったんですが、ずっと計算すると、民営化は20年ぐらい前でした。民営化の本当にはしりのときだったので、大変な時代でした。すいません。

○師岡会長 ありがとうございます。また議事録も出ますので、その時点で何か発言を訂正されたいろんなことがあったらおっしゃってください。

それでは、まだまだ議論を続けたいところだろうとは思いますが、次回には、現状確認、課題の抽出を踏まえながらの今後の対応というところで議論を進めていきたいと思っております。

その際には、会長並びに副会長とも相談しながら、やはり回数も限りがありますので、

今日だけではない、前回までいただいた意見をもとにしながら、少し検討すべき課題の整理をしておきたいと思います。

その中で、くどいようで申しわけないんですが、やはり小金井市全体の保育行政のあり方、言い換えれば、小金井市の保育園を公民問わず利用されている子どもさんはもちろん、そして、保護者の方にとっても、いかに質の高い保育が提供できるか。その点に関して、この協議会として市に向けて意見を申し述べることが問われている、まさに中心課題だと思います。

その中で、例えば、大塚委員がおっしゃったような民営化の問題というものを、また意見としてどういうふうに述べていくか。そういったことがそれなりの合意形成ができればそれをまた盛り込むべきでしょうし、また、保育の質ということは、当然、お金が伴わなければ実現しないことが、例えば、研修1つとっても実際あるわけですね。

そういった意味では、これも、大塚委員、財政論的な視点が非常に大切だということも多分おっしゃりたかったんだろうと思いますが、でも、財政論だけで、ないしは、民営化の是非だけで特化した協議会かということ、確かにそういう性格とはまた違いますので、

小金井市の全体のあり方を議論するその一端として、そういうことも意見交換しながら、長岡委員もおっしゃったように、公立だ、民間だ、ないしは、それがどっちが上とか下とか、どっちがいいとか悪いとかという議論ではなく、とにかく、総合的な、よりよい保育のあり方を何とか意見集約できるような、そういったことにより次回以降は議論を進めていきたいと思っておりますので、また継続してご協力いただければと思います。

ちょっとまだ中途半端なところがあるかもしれませんが、それは、今申し上げたように、5回目以降に続けていただければと思いますので、ご了解ください。

それでは、これで本日の議題3ということは終了とさせていただきます。

では、次回以降の日程について、ちょっと事務方と相談いたしますので、しばらくお待ちください。

休 憩

再 開

○師岡会長

では、次回の日程は、再度確認しますが、9月25日、7時半からということで決定

させていただき、それ以降も今申し上げたとおりの日程でお願いいたします。

では、以上で本日の日程は全て終了いたしましたので、会議を閉じ、散会をいたします。どうもお疲れさまでした。

閉 会